みいけ

發行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭鑛528 475番
編集發行人　平島敏治
三鉱労組印刷工場

三鉱労組
機関紙

◎この機關紙は大牟田地區勞組共闘編集です◎

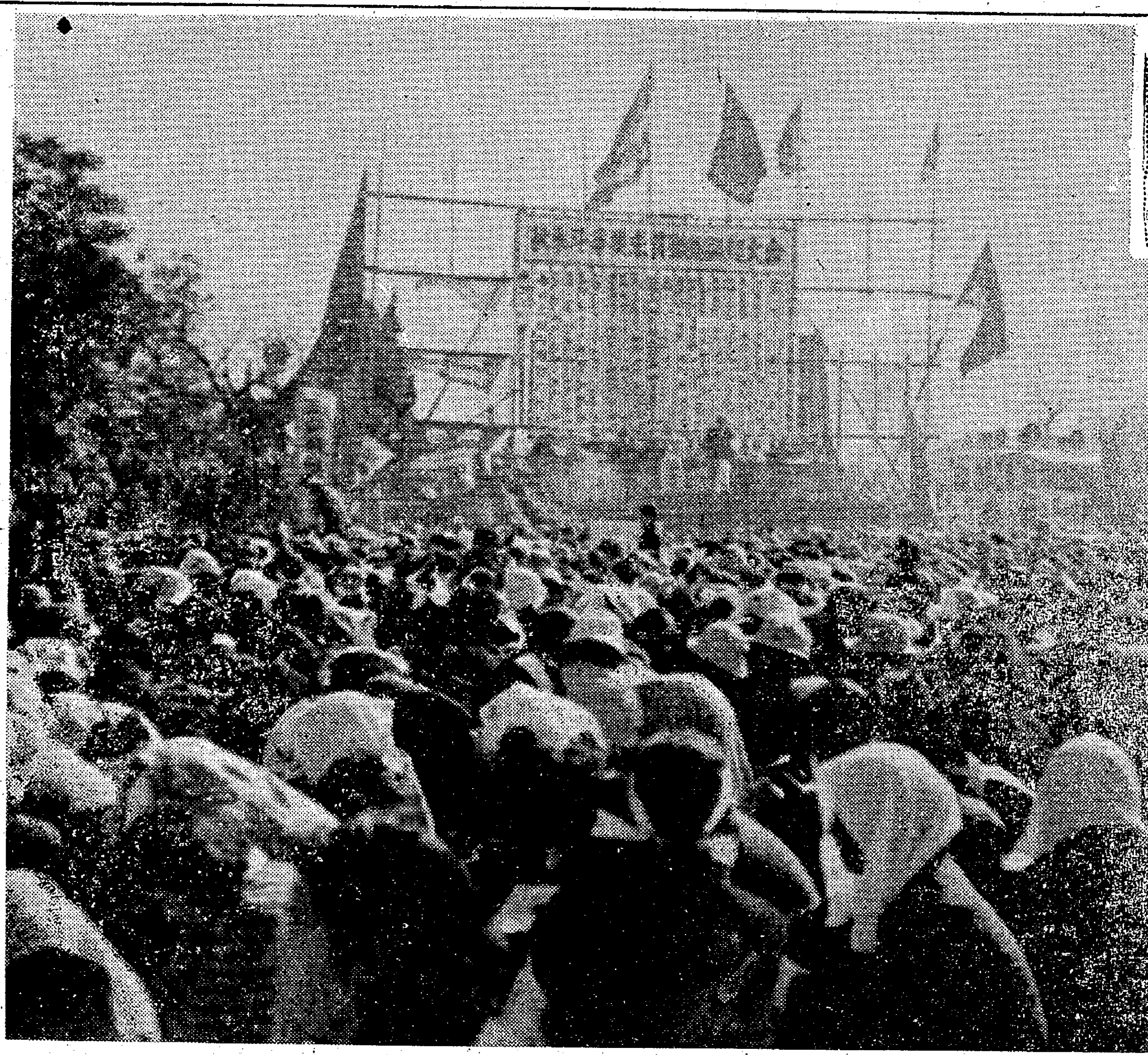
共闘の旗は進む

會場埋めた三万五千

要求貫徹悪政粉砕の結集なる

かつてない動員の電化

正當なピケやデモを彈壓し、首切り、賃下げ、勞仂強化を、官憲や裁判所の力を利用して攻めたてゝ来る政府や獨占資本などの攻勢に対し、勞仂者は総ゆる要求をもつて統一行動で全面的反撃に出ている。この闘いを勝利するために秋季闘争要求貫徹労仂者大会に結集された力は、生活と民主々義、平和を守る力である。



林立する赤旗　群立するプラカード

この日一点の雲もないほど晴れわたつた秋空の下、先ず東圧労組が入場の尖端を切つて入つてくる。続いて三鉱宮浦支部と同炭婦協が入場し、あとは切れ目がないほど各労組が続々入場し、午前十時になつて会場は林立する組合旗がはためき、プラカードが群立し、ほぼ会場は一ぱいになる。午前十時五分、三池引地実行委員によつて開会を宣し、議長団に三鉱菊川、三染園下、教組坂井の各氏を選出。「各労組の期末手当闘争、教組 市職運等の地方自治闘争 新賃金闘争など、闘いは盛りあがり 十一月下旬に開かれる国会に対してデフレ政策粉砕の力を結集するため、今日の大会を開催することになつた」と、清田実行委員会事務局長の挨拶。「デフレをゼネストで打破り、生活と民主々義と平和を守ろう」と、小宮実行委員長の挨拶の後、二十本のスローガンを満場割れるが如き拍手で採択し、左社、共産、県地評代表のメッセージにも大衆は拍手で答えた。

各労組がどのように闘つているかを充分知つてもらうため意見発表に入れ、職場や地域の要求をつみ上げて年末と新賃金闘争を行つている」三鉱（河野）「暴悪のときはゼネストで共闘願いたい」電化（梅崎）「スト権を奪われているが強力な闘いを行つている」国鉄（野尻）「炭鉱や近江絹糸の闘いに感激している。生活と平和のために闘う」電通（安田）「失業の街をなくし、日雇も人間なみの生活ができるよう闘う」自労（野中）「中小企業労組に今後とも指導と援助を願いたい」中小労連（古賀）「病人と家族が畳の上に一枚のフトンに寝ている姿は、明日の私たちの運命でないと誰が言えるでしよう」炭婦協（野田さん）等の憎しみをこめた訴へや、力強い決意などの意見に大会の意識は一層昂まつた。

「首切り、賃下げ、労働強化、ピケや大衆行動などに対して、裁判所や官憲などの国家権力で弾圧し独占資本に奉仕しているアメリカ従屬の賣国吉田反動政府打倒、デフレ再軍備政策フンサイのため、ゼネストをもつて断固闘う」との決議文は、これまた嵐の如き拍手で採択された。

吉田内閣、福岡知事、電化大牟田工場長に対する抗議を決議し、山口県の厚狭労組の組合役員の不当解雇反対闘争支援（帰牟中の三鉱運灰原事務局長提案）、福岡県教研大会に対する激励電報打電の緊急動議などを決定。日鋼室蘭労組大牟田歌う会の東京派遣を一緒にした参加者の任意カンパを了解し大牟田歌う会の「平和を守れ」の合唱、同合唱団指揮による「民族独立行動隊」を全員で合唱、歌声は晴れた秋空一杯にとゞろいた。続いて菊川議長の音頭による万歳に入り、数千本のプラカード、数百本の真赤の旗、三万五千人の手が笹林公園をどよめかす万歳の声と共に高くあげられ「要求は必ず闘い取る」との決意、「反動政治を必ず打破る」との血を燃えたゝせた。かくて甲斐田市職運委員長の閉会の辞で、多くの成果を収めて大会は終了し、デモ隊は三隊に別れてデモに入つた。

この日の大会で特に注目されたのは、この種の行事に多く参加したことのない電化の組合員が六〇〇名近く参加したことゝ、はじめて炭婦協以外に、電化の主婦が二〇名近くも参加したことである。この事実は、弱いといわれている組合でも、労働者であり、その家族である以上は心の底に同じ強さをもつていることを示し、大会の意義を一層たかめた。

書記局便り

十一月二十五日生活対策資金貸出開始　十一月二十七日企闘終結記念日　前段闘争山元福利厚生同交妥結　十一月二十九日宮川組合長欧洲視察より帰山　十一月二十九日　中央執行委員会

大会に對する聲

要求の自信を得た

大会やデモが短くできないか

三川鉱　山本主婦さん

不景気に期末手当や賃上げを闘い取るということは本当に出来るのだろうかと、少し不安があつたが、決起大会に大牟田のあらゆる単産の組合員、家族が二万人以上も集つて固く手を結ぶ現実を目のあたりにして、これならやれる、と大へん力強く感じました。

宮浦鉱のある組合員（3班）

労働者や市民の力を結集する意味で、大会は成功だつたと思う。しかし、子供を負つて参加している主婦のことを思うと、大会の進行をもつと早くすることや、デモ隊を三隊か四隊にして、デモの時間を短くし、多くの市民になじむようにした方がよいのではないでしようか。

反動内閣打倒署名

共闘委30日から開始を決定

吉田賣国汚職内閣打倒の署名運動は、総決起大会で電化工場長に抗議すること等と共に万雷の拍手で決定された。二十二日の共闘委員会で、その処理方法が具体的に決定され、直ちに実行に移ることになつた。

①各組合は直ちに文書、口頭で宣伝活動を行い、組合員家族に徹底させる。
②大地評でポスターを作成する。
③宣伝期間中に農民、商人団体にも呼びかけて協力をもとめる。
④各組合は一せいに十一月三十日の臨時国会開催の日より職場、社宅、地域或いは出退門時に一せいに行う。

また街頭署名は十二月四・五日の二日間午前十時より午後五時まで大牟田駅、松屋前、栄町など市内十カ所でそれぞれ各組合が担当して行うことになつた。当日は三鉱のニユースカーも出動して市民に協力をうつたえ、反動賣国内閣の打倒宣伝を行う。

なお、電化の闘争宣言とにらみ合せて、市民の世論かん起をふくめて「クビ切り反対」の署名をあわせて行うことがあることを申し合せた。

全電化大会に激電

十一月二十三日から行われている全電化の大会に対し、共闘委員会の決定によつて〝労働者の力を信じゼロ闘争で闘え〟と打電した。

工場長へ抗議文

大会の決定に基き、二十二日共闘委員会の代表は、折りから上京せんとする高橋電化工場長を訪れ、抗議文を手交した。この日抗議団は「われ／＼は全力をあげて電化労組を支援する。無益な争いにならぬよう社長に伝えてほしい」と、鋭く要求した。

主張

自からの問題として

電化の首切りを闘おう

「組合が第一に取上ぐべき問題は何といつても首切りであつて、その他の労働条件は二義的といつてもよい問題だ。それに電化には一九二名の首切りが来ている。電化労組だけの問題でないことはわかつている」。共闘を組んだら、組んだだけのことをしろ」これは電化を除く他の組合員の声

「電化の執行部は他の組合から引きづられているのではないか電化の問題を電化の執行部だけでは何故やれぬ」これは電化執行部に入つた電化組合員の声。

ホントウの闘争、特にこれからの闘争は大衆の中に根を下さなかつたら、闘いの勝利は期せられない。とすると、この二つの声に対してスツキリした考えを述べておかなかつたら、寧への道に無理が来ると思うので答えておかねばならぬ。先づ首切りがどうして来たかということから進めて行くと、決して電力料金なんかの問題でない。儲けを景気のいゝ時と同じ様にとろうというだけのことである。

特に電化の場合は、政府が景気を悪くする政策をとつている今日でさへ、前期に二割五分の配当をしている。それが電力料金が上つたといつては首を切るというに至つては言語同断といわなければならぬ。

経営者は自分の首が切られる気持で経営を検討した後は見られない。常日頃「父子の様に…」という程労働者の身の上を考えている会社幹部であるなら乗用車も乗り廻すまい。又彼等の生活内容にも何等の変哲もないではないか？

首切りは経営能力のない経営者が求めた安易な道で、決してコケオドシにかゝつてはならぬ

次に電化外労組の「共闘を組んだら組んだゞけのことをしろ」と電化組合員の「他の組合から引きずられているではないか」という二つの声に対して答えると、

昨年あの激しい闘争をやつた三鉱労組の時、地元の共闘は勿論、九州の各炭鉱から執行員といわず、炭婦協役員といわず、常時やつて来て社宅や職場で夜遅くまで座談会や、その他情宣活動が行われ、大地評の共闘会議では同情ストの件も議題に出一、二の単産は入るべきだという主張がされたことがある。

三鉱自体にも勿論勝つ要素があつたことも事実だが、共同闘争が大きく作用したことも否定出来ない。特に本年に目立つて来た傾向は、近江絹糸の如く、港湾労働者の積込み拒否、問屋の荷受拒否等による側面闘争も展開され、あのような成果を挙げ得たのであつて、今日の闘いが一つの単組の闘いで勝てるかどうか三才の子供でもわかつている。

日本の労働組合は本年多くの異つた闘争を経験して戦術も非常に高度なものになつた。このような情況からしても、引きずられるとか引きずられないとか全くナンセンスで、兎角我々の闘志を失望の巷に突き落さないためには、どうするかゞ一番論議されねばならない問題である。

又共闘を組むということも大地評で共闘委員が十何人か集つて色々と協議することがその全体ではない。各単組の組合員が友達や親戚をたよつて励まし合い、助けあい、又は若人達がどう闘うかの話合いをするとか色々方法があるが、この点で完全に手が握れたときがホントウに地についた共闘といえよう。この際エゴを捨て一九二名の首を守るため皆んな手を握つて即刻起ち上らねばならない。

× ×

全電化大會

條件闘争を決定

どうなる今後の闘争推移

一九二名のクビ切闘争を勝利させるために、解雇発表と共に、大地評はたゞちに共闘を組み、つぎのような支援を行つて来た。

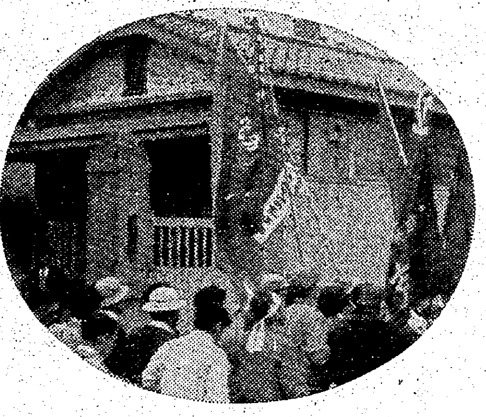
一、各組合は伝単によつて電化組合員を激励する。
二、電化の工場、社宅周辺にボスターをはりめぐらし、強力に激励すること。
三、ニユースカーによつて社宅を情宣すること。

以上を十一月十日の共闘委員会で決定し、たゞちに実施した。これまでの共闘で最大なものは十一月十四日、組合員の退勤者による決起大会開催に当つて、大地評参加の組合員約三百名が参加したことである。このことは組合員の動員に役立つた。当日午後四時ごろ電化の組合員約七百名（百%近く）と応援労組によつてデモ隊が編成され、中町社宅から明治町、大正町を経て、大会場である組合事務所前に集合した。この大会は組合員の意志を強く鼓舞した。

電化の組合員と家族が、今までにないほど闘う決意をかためていることは、ゼロ闘争か否かを決める十五、六日の無記名投票によつてゼロ闘争の賛成七三二票、反対三九八票という結果や、今次の大地評総決起大会に組合員、家族が約八〇〇名参加したこと等の事実をもつてしてあきらかである。

地元におけるこのような盛り上りにもかゝわらず、二十一日から開かれた東京における全電化の中央委員会、同二十三日開かれた大会で、大牟田のゼロ闘争の方針が否決され、条件闘争に移向が決定された。今後の方針は上京者の帰牟を待たなければ明確ではないが、組合員の闘争意識と共に大地評傘下の組合が全面的に支援するという決意をしている時だけに、この問題の推移は各方面から重大なる関心を集めている。なお、大地評は十一月二十二日共闘委員会を開催し、現段階においては電化労組の態度を尊重する立場から、当面の電化支援対策をつぎのように決定した。

一、大会の名によつて社長に抗議文を出す。
二　組合員や執行部に大地評傘下の組合が激励文を出す。
三　ニユースカーによる宣伝等を強化する。



【寫眞説明】 11月14日、電化工場正門前を決起大会場に向う組合員

賃増斗争を準備

＝三染労組＝

一時金闘争を終つた三染労組は、直ちに、次の賃増闘争の準備を始めているが、そのためにはまず体制を確立することが急務であるとして、そのためには職場や社宅の種々雑多な要求をとり上げては一つ一つ交渉してゆくことゝなつた。なお、それらの要求には当面、イ、奨学資金を出してもらいたい。ロ、結婚資金の貸与。ハ、コークス労の増配。ニ、作業衣の増配。ホ、社宅の問題。ヘ、住宅料を出せとの要求。ト、永年勤続者の表彰。などが含まれている。

組合員に不満の聲

妥結した労組の期手闘争

【東圧】大牟田地区の期末手当獲得の先陣として先ず東圧がトップを切つた。要求は五万九千五百円（税込）連日にわたる社内デモ、決起大会等の大衆闘争で圧力をかけ、第四次回答額三万二千五百二十八円を獲得 十月十六日スト直前解決した。

【合成】要求額は三万六千四百円（税込）十月十日会社は一万九千五百円の回答額と共に十七日に支給する旨組合に提示、組合は評議会で論議した結果、会社回答額をのむことを絶対多数で決定した。だが組合員の不満は強く、最后的態度を決める妥結賛否の無記名投票には「弱体執行部ヤメロ」などの落書があつた。その反面、組合強化の建設的討議が行われている職場もある。

【三染】二万五千六百円（税込）を十月十五日要求。以后執行委員の職場活動、決起大会などで体勢をもりあげ中央交渉委員を激励し会社の意図する職階制度 職階配分の打破を闘つて来た。十一月十日手取り一万七千九百円の回答あり、組合は一応呑んだが、上に厚く下にうすい配分案に、組合員は強い不満をもつている。正式決定は三十日の総会で行う。

【三硬】十月十八日二万円（税込）を要求。会社回答を不満として全鉱の指令により、十一月十九日一番方より「重点無期限部分スト」に突入することになつていたが「延期」指令により中止。十九日午后六時会社は一万五千円、増資記念賞千三百円を提示、中闘委はこの案に仮調印したので闘争は終了した。山元大衆の間には、この妥結を不満とする声が相当あるが来春の賃上げ闘争に総力を結集する声もある。最終態度は中闘帰山後二十六日ごろ検討される。

貨車はストップ

国鐵

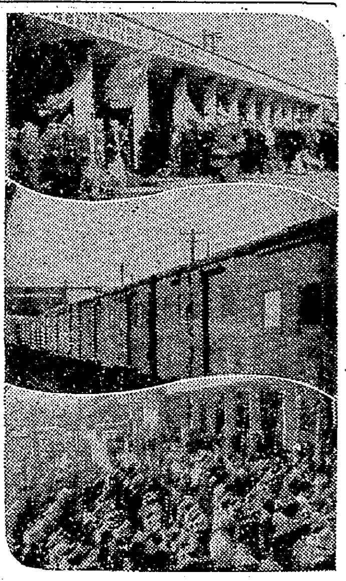
教組 市職運 は二カ月分を要求

国鉄、全逓、全電通、全専売などの官公労組は、年末手当二カ月分（三万七百四十円）と新賃金を要求して闘つているが、とくに国鉄の闘いは強力に行われている。国鉄大牟田分会では十八日午前八時三十分より、大地評傘下組合より百名の応援を得て、十二時に至るまで職場大会を行い、大会終了後は正面から駅構内をまわるデモを敢行、賃金保障などで駅長をつるしあげた。このため旅客列車はやつと動いたが、貨車などはオールストツプし当局の頑迷な態度に痛打を与えた また二十四日は第四波として熊本車掌区において、零時より三割休暇を行い、これによつて貨物列車などを運転休止（三十二本）を出した。

地方公務員である教組は、県に対し二万八千円（税込み）の越年手当、市に対して調査研究費として平均三千円を要求している。

市職運は近く二カ月分（三万四千円税込み）を要求する。

従来教組、県職、市職などは地方自治防衛闘争を遂行して来たが、今次の年末手当の闘いなども、これと併せて闘うべく、体勢を進めている。



【写眞は国鉄大牟田の第三波職場大会（上）構内デモ（中）完全ストツプの貨車（下）】

東壓労組と統一へ

―東圧臨時工労組の動き―

東圧労組では、かねてから高労会（現務員組合）に対して統一を再三にわたつて申入れていたが、いつも現務員組合の方から拒否されていた。

そこで高労会の組合員は、合同に賛成する大多数の組合員の意志に反して統一を妨げてきた幹部を不信任して、さらに十一月二十二日に行われた役員改選でも、職制による猛烈な不当介入があつたにもかゝわらず、合同賛成の執行部が選ばれ、労働者の統一強化へ大きく前進した。

自労

自労は越年要求として政府及び県に十五日分（三千七百五十円）、市に二千円。十二月、一月の完全就労、年末年始に一週間の休暇等を十一月十一日に要求。市長帰牟後たゞちに団交を行う。

殴打した警官に判決

三川の警官がさ細なことで殴打暴行を加えて発狂さした事件は、大地評などが人権ヨーゴの問題でこれを取りあげ、裁判の折りは動員して応援したりしていたが、その後十月十三日大牟田地裁で判決が行われた。

大牟田の警察では、無罪釈放のため資金カンパなどしてあらゆる運動をした模様であつたが十月二十七日控訴満了期間も過ぎて、ついに懲役六カ月 執行猶予二カ年の刑が確定した。被害者の父古賀一さんはこの刑に多くの不満の意を表明、二十九日に小宮市会議員を通じて、市長に対し損害賠償（当時市警であつたため）を請求した。

三鉱

窓口打開の斗い

電産 自労 は賃上げ越年斗争

三鑛労組

三鉱労組は一万四千五百円（税込み）の要求案を炭労大手筋一本で決定した。しかし交渉方式は他産業と異つて、大手炭鉱（三井、三菱、住友、古川 太平洋 北炭、明治、雄別の八社）労組が、互いの交渉に、各労組の交渉委を交へる（対角線方式という）交渉方式である。

この交渉方式は八社はすべて拒否し、炭労は交渉の窓口を開けるため十一月十三日より三菱の高島（長崎）、美唄（北海道）にストを指令、二十二日から高島の端島炭鉱にストを指令した。ストに入つていない七社労組は所属の会社に対し「交渉に応じろ」という大衆行動を行い、スト突入労組に資金カンパや激励をする。以上の炭労指令によつて、三鉱労組は職場や地域の要求をつみあげて「窓口打開」の闘争を行い、ついに三井は他の七社に先きがけて認めた。なお、長期闘争が予想されるが組合員と家族の意気は高い。

電産労組

電産労組は十月から現行賃金二万五千二百四十円の二、五%上昇の調停案を呑んでいながら実施しない会社に対し、労組は十一月九日スト予告、二十日スト権を確立した。

廿五日指令第一号が発せられた。なお期末手当、越年資金（合計）四万八千九百円の要求は、賃上げ闘争終了後たゞちに行う方針であるが、時期的に遅くなるというので併行的に闘うとの動きもある。

速報

三鉱労組の宮川組合長は去る九月中旬より、フランス、イタリヤ総同盟の招へいにより、アジヤ、ヨーロツパをまわつていたが、十一月二十六日着京、二十九日に帰牟した。

三鉱労組三川・四山支部御指定
トツプ・モード
紳士服・婦人服・靴
カバン・其他洋装百貨
二神百貨店
大牟田市泉町一四　電4887

家具漆器
嫁入道具大賣出し
松永家具店
大牟田市元町上官通り入口
電話　三八六三番

洋傘・ショール
マフラ・レインコート
冬も近まりました
ショール・マフラーなら
大黒屋
有明町（市民館前）TEL 3932

マグネット号
桑原の自轉車　十ヵ月拂
タイヤ
ランプ　部品の取替は
チケツトを御利用下さい
山本自轉車店
大牟田市元町上官通り
TEL 四六六七

洋品はこみや
築町バス停前
ネクタイ、マフラー
手　袋、スカーフ
紳士、婦人用肌着　豊富入荷